

可塑剤は安全・安心に使えます。

可塑剤の急性毒性は塩、砂糖などよりも安全です。

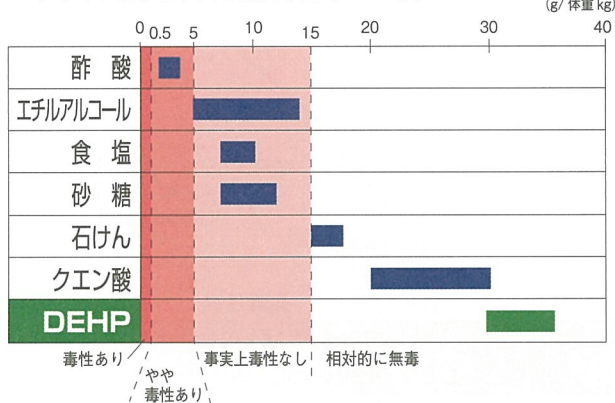


代表的な可塑剤であるフタル酸エステル（DEHP）は安全性が高い製品です。

急性毒性は塩や砂糖、エチルアルコールなどよりも極めて安全です。

DEHP および一般品の急性毒性

ラットに対する経口の急性毒性（LD50 値）



可塑剤には発がん性はありません。



国際ガン研究機関（IARC）は可塑剤をグループ「3」（ヒトに対する発がん性については分類できない）に評価しています。

IARCによる発ガン性評価の分類（2000年）

グループ	評価と物質
1	Carcinogenic to Humans (ヒトに対して発ガン性がある) アスベスト、コaltarール、アルコール性飲料、煙草の煙、他
2A	Probably Carcinogenic to Humans (ヒトに対しておそらく発ガン性がある) クレオソート、ベンツピレン、ディーゼルエンジンの排ガス、他
2B	Possibly Carcinogenic to Humans (ヒトに対して発ガン性がある可能性がある) コーヒー、酢漬の野菜、サッカリン、ガンリン、他
3	not Classifiable as to its Carcinogenic to humans (ヒトに対する発ガン性について分類できない) DEHP、DEHA、クロフィブレート、お茶、水道水（塩素処理した飲料水）、他
4	Probably not Carcinogenic to humans (ヒトに対しておそらく発ガン性がない) カプロラクタム（1物質のみ）

可塑剤は環境ホルモンではありません。

1990年代の後半に環境ホルモンが問題となり、可塑剤にも内分泌錯乱作用があると疑われました。しかし、可塑剤工業会の試験で安全性は確認されました。

さらに、2003年、環境省は「SPEED'98」にリストアップされていたDEHPなど全9種類の可塑剤について、女性ホルモン様作用だけでなく、男性ホルモン様作用や甲状腺ホルモン様作用まで詳細な試験を行いました。そして、可塑剤はヒトにも、生態系にも内分泌錯乱作用は認められない、つまり、「可塑剤は環境ホルモンではない」という研究結果を発表しました。

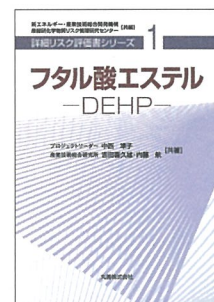


精巣毒性および生殖毒性でもリスクの懸念は解消しています。

独立行政法人 産業技術総合研究所の化学物質リスク管理研究センターは、2005年に『詳細リスク評価書／フタル酸エステル—DEHP—』を出版しました。

その中で、精巣毒性と生殖毒性について、「いずれもDEHPは懸念されるレベルにはない」と判断しています。

公的機関によるリスク評価で可塑剤の安全性に関する疑問は解消されました。



■『詳細リスク評価書／フタル酸エステル—DEHP—』
産総研 化学物質リスク管理研究センター
新エネルギー・産業技術総合開発機構 共編